

## 高校生のキャリア形成支援に資する 国語教育のあり方に関する研究

### —キャリア教育に求められるコミュニケーション能力の 国語科での育成方法の検討—

林 一\*・野村 泰朗\*\*

学校現場においてキャリア教育が注目されている。若者の生活を取り巻く社会状況が急速に変化していく中で、キャリア形成支援の理念と同時に国語力の重要性について改めて認識する必要がある。多様な他者との円滑な相互交流と意思疎通を実現するためには、これまで以上の「話す・聞く」の基礎基本となる音声言語の運用能力が求められる。キャリア形成として、自分の意見をきちんと述べるための論理的思考力を獲得し、自立した社会人として自己を確立するにあたって母語である国語の能力が大きく関わっている。本研究では、高等学校の生徒に対して「コミュニケーション能力」「人間関係を形成・展開する能力」等の育成に関して、高校生、教員、企業に対して実施した意識調査の結果から、キャリア教育に対する国語科教育の立場からの具体的な支援方法を提案する。

キーワード：キャリア教育、国語科教育、コミュニケーション能力、言語運用能力、音声言語教育

#### 1 はじめに

##### 1.1 社会から求められるコミュニケーション能力

近年、学校現場にキャリア教育が積極的に導入されつつある(文部科学省2004)。意欲を持っていない青少年に対して「先を見せて自立を促す」ための施策である。「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告」(2004)によれば、キャリアとは「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付

けの累積」であり、キャリア教育は「キャリア概念に基づき児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」と定義されている。

現在の学校現場における生徒の自己肯定感の低さ、集中力や耐性の欠如、学習意欲の低下、そしてコミュニケーション能力の低下など状況は非常に深刻である。「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引き」(文部科学省2006)によると、キャリア教育はそのような現状を打開するために各学校現場で発達段階に応じて多様な工夫を施しながら導入されている。

一方で、例えば、東証1部上場企業に対して「新入社員の国語力で改善すべき点」という

\* 埼玉大学大学院教育学研究科、埼玉県立大宮工業高等学校  
\*\* 埼玉大学教育学部

テーマでNHK日本語センター（1993）が実施した質問紙調査の結果をみると、「人の話を聞く姿勢に欠ける」「筋道を立てて話せない」「的確に意見を述べられない」「要点を簡潔に述べられない」「他分野の人に分かるように話せない」「他者との議論が深まらない」などの問題点が指摘されており、読み書きの領域よりも話す聞くの領域の抱える問題をより多く企業は認識しているということが伺われる。

同様に、経団連（2006）が実施した「大学新卒者採用に関するアンケート調査」の結果（図1）でも、企業は大卒者の採用試験に際してコミュニケーション能力を最も重視する傾向が表れている。さらに、東京経営者協会（2005）が実施した「高校新卒者の採用に関するアンケート調査」の結果（図2）では、高卒者に対しては採用試験に際して「基本的な生活態度」が重視する項目の最上位に来ているが、その次には「コミュニケーション能力」を非常に重視して採用していることがわかる。

若い世代においては、ことばを適切に用いて人間関係を築き維持していく「コミュニケーション能力」が低下している、と以前から指摘されてきた。「次代を担う自立した青少年の育成に向けて（答申）」（中教審2007）によれば、近年頻発する青少年をめぐる社会的な諸問題の根底には、異世代間や同世代間で円滑な人間関係を築いていくための言語の運用能力、その中でも特に話す力・聞く力が十分に育成されていないことが大きくかかわっている可能性があることが指摘されている。さらに「児童生徒の問題行動対策プログラム」（文部科学省2004）においても、話す力・聞く力の不足はコミュニケーション不全につながり多様なトラブルの原因にもなっている、と指摘されている。

話す・聞くときに中心となる音声言語は、文字言語とは異なり、ことばそのものが持つ意味（言語情報）以外に、たとえば声の大きさや調子、表情や視線などの非言語情報が大きな役割を持つ。声によって届けられることばは、文字

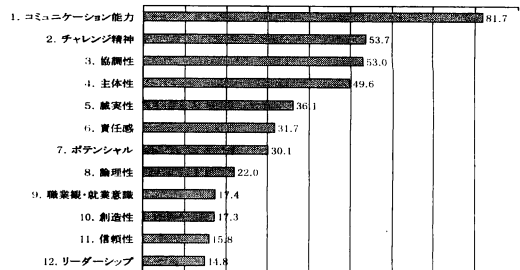


図1 大学新卒者採用の重点事項  
（「新卒者採用に関するアンケート調査」  
日本経済団体連合会 2006）

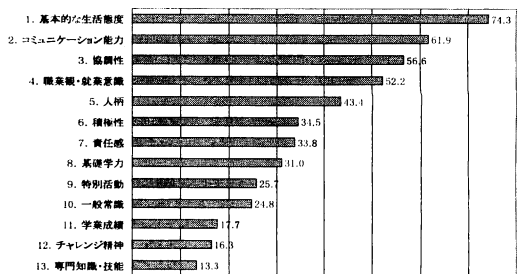


図2 高校新卒者採用の重点事項  
（「新卒者の採用に関するアンケート調査」  
東京経営者協会 2005）

言語とは違った観点から、時に人を動かし、時に深く傷つける。さらに、音声言語は、発せられた後、消えてなくなるがゆえに、送り手も受け手も特別な配慮が必要となる。ましてや、学校を卒業し社会に出てからは、気心の知れた友人との関わりだけでなく、面識のない、立場も年齢も異なる他者と関わる機会が非常に多くなる。発信することばの中身はもちろん大事だが、それを声に乗せ相手に向けて適切かつ効果的に伝えるための、基礎的な知識や技能は不可欠である。

## 1.2 国語科におけるコミュニケーション能力に関する指導の現状

国語科における、「音声言語（話し言葉・話す聞く）教育」は、1900年（明治33年）の小学校

令施行規則中の教訓において「話し方」が国語科の一領域として設定されて以来、現行の学習指導要領に至るまで、少なくとも制度の上では国語教育の重要な内容であり続けてきた。戦後の早い段階から近年に至るまで、有力な国語教育学者が次のように音声言語教育の重要性を訴えてきた歴史がある。

西尾実は、「文字の発明・発達は、けっして、話し言葉の不要を告げるものでもなく、また、話し言葉の文化の意義を失わせるものではない。むしろ、話し言葉が発達し、話し言葉の文化が進展することによってのみ、文字言葉とその文化は、健全な発達を遂げ得る関連におかれているものである。」(西尾1947)と主張している。

また、倉澤栄吉は、「話しことばは書きことばに比べて、一段低い地位に置かれていました。……中略……学校教育、社会教育を通じて、話しことばの持つ人間形成における役割を中心にすべきです。人間関係の改善のためにも話しことばの役割はまことに重大です。」(倉澤1969)と、やはり音声言語教育の重要性を説いている。

しかし、現実の学校現場において国語科の指導の中で音声言語教育が重視されてきたとは言いがたい。これまでの国語科教育は文字言語(書き言葉・読む書く)の教育が重視され、音声言語の教育は一部で取り上げられた時期もあるが全体的には軽視され現場に浸透するには至っていない。

増田(1994)によれば、国語科の授業が、教科書教材の読解指導に重点を置きすぎたために、音声言語の指導は片隅に追いやられてしまい、あげくの果ては、中間試験や期末試験の範囲を確保するために、音声言語の指導そのものをカットしてしまうといった例すらあった、という。現行の学習指導要領高等学校国語科では、言語運用能力に関連する内容として「伝え合う力」「言語感覚」「言語文化」が取りあげられている。とりわけ、生徒の「伝え合う力」を高めることが重視されているにも関わらず、音声言語教育が学校現場に普及しづらい理由には、1)

音声言語の教育を教員自身が受けていないため指導方法がよくわからないこと、2) 音声言語指導の評価方法・規準等の設定が容易ではないこと、3) 大学入試問題が文字言語能力を重視した出題内容であること、などが考えられる。さらに、児童・生徒の生活環境の変化から新たな課題も生まれている。それは、携帯電話やパソコン、ゲーム機などの新たなコミュニケーションメディアの普及の影響である。いわゆるICT(Information and Communication Technology)には、文字言語中心の技術が多く、日常生活における音声言語の運用場面がさらに少なくなることで、音声言語教育の必要性はさらに増していると考えられる。

このように国語科は、他教科の学習活動に最も影響がある教科として、時間割編成上の要となっているだけでなく、社会で求められるコミュニケーション能力の育成も担うことを意識すると、時間数の少ないなかで、国語科のねらいを精査し、効果的かつ効率的な授業展開の工夫をしていくことが大事である。

### 1.3 研究の目的

本研究では、青少年の将来の社会的自立への内発的動機付け及び就職・職業選択に資する能力として、特に「話す・聞く」といった音声言語によるコミュニケーション能力に焦点を当て、学校教育においてその教育を中心的に担う国語科教育のあり方について、高校生、教員、企業に対して実施した意識調査の結果をもとに、具体的に、言語運用能力育成の方略、目標設定、授業設計、指導方法、評価規準等について、今後の国語科に求められる授業改善の視点を提案する。

## 2 キャリア教育と国語科

### 2.1 従来の進路指導とキャリア教育のちがいを

高等学校における従来の進路指導は高等教育機関への入学試験や企業等への採用試験の可否

だけに焦点が絞られる傾向が強く、その後の将来を展望する力を育成することには必ずしも成功してこなかった。図3に示すように、これまでいわゆる「出口指導」に重点が置かれ、生徒の発達課題の達成を支援する系統的な指導・援助といった意識や観点が希薄であった。また「高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究会議報告書」(文部科学省2004)によると、従来の進路指導には実践を通じた指導方法の蓄積が少なかつたりしたことなどから、取り組みが全体として脈絡や関連性に乏しく、生徒の内面的変容や能力・態度の向上に十分結びついていないという課題があった。

従来の進路指導観を転換するために現在推進されているキャリア教育は、ニートやフリーターの増加、早期離職率の高さなど若年層の就労問題に対する方策の一環という側面が強い。だが、自己の過去から現在に及ぶ歩みの形成であるキャリアは、本来本人の自立への意欲に基づくものである。従来、若者の自立心は本人の発達段階に伴って自然に育まれるものであり、社会や学校が支援するものではなかったと考えられ、現在求められるキャリア形成支援は本来必要のない教育理念だったと考えられる。

キャリア教育は、図3の左側に重きを置き、学校活動全体を通して、児童・生徒の発達段階に応じて体系的に実社会と個人の関わりについ

て理解を深めさせ、勤労観・職業観を育成し、同時に自分の将来の目標やその実現(キャリア形成)のための生き方、学ぶことの意義などを考えさせ、生徒の自立への意欲を高めるための教育理念である。(文部科学省2004)

2.2 キャリア教育の本質と「話す・聞く」力  
「キャリア教育」という文言が、文科省関連の審議会報告等で初めて登場したのは、1999年中教審答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」が最初である。以来学校現場においてキャリア教育の理念が徐々に導入されてきた。しかし具体的には生徒に就業体験をさせて実社会に対する理解を深めさせたりする実践事例などが大部分である。つまり若年層の就労問題、いわゆるフリーターやニートや早期離職者等の対策という意味合いが濃いものだった。しかしキャリア教育の方向性は本来そのような内容のものではない。キャリア教育の本質は学校活動全体を通して生徒の自立への内発的動機付けを効果的に支援することにある。

「児童・生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」(国立教育政策研究所2002)によると、生徒の職業的(進路)発達にかかわる基盤能力として人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力の4つを挙げている。

人間関係形成能力は他者の個性を尊重し、自分の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む能力とされている。また、人間関係形成能力の基盤として、自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく「自他の理解能力」と、多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら自己の成長を果たしていく「コミュニケーション能力」が挙げられている。

また、職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度とし

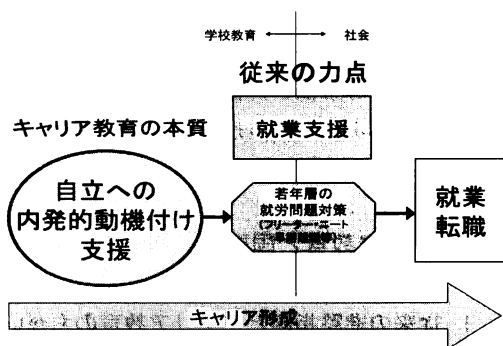


図3 進路指導からキャリア教育への転換

て「自他の理解能力」は、①自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする、②他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる、③互いに支え合い分かり合える友人を得る、と整理されており、「コミュニケーション能力」は、①自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する、②異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る、③リーダー・フォロアシップを発揮して、相手の能力を引き出しチームワークを高める、④新しい環境や人間関係を生かす、と整理されている。

とりわけ人間関係形成能力の土台と位置づけられているコミュニケーション能力は、他者と「伝え合い、感じ合い、わかり合うこと」であり、社会の中で「生きる力」の基礎である。青少年のコミュニケーション不全はそれらの技能の未熟が大きく関与している。そしてキャリア教育においてコミュニケーション能力の育成は最も重要なテーマの一つである。

よって、学校教育の中では、生徒に対する教科指導にあたっては、教員が授業設計や教材研究の中で、各教科の単元ごとの学習目標や内容と現実の多様な職業や生活との関連や見通しを与えるなど、学ぶことと働くことの意味と繋がりを実感させ、将来の自分に必要な教養や技能はなにかに気づかせて学習意欲を刺激することが重要なことはもちろんであるが、同時に「コミュニケーション能力」についても、広く扱って行くことが求められると考える。

国語科における言語能力には二つの領域がある。音声言語と文字言語である。これまでの国語科教育は「読む力・書く力」の文字言語能力の育成を重視し「話す力・聞く力」の音声言語能力の育成を軽視してきた。そこで本研究では、高校生が自分自身のキャリア形成のために、将来を切り開いていく能力を育成していくために、「話す・聞く」力の育成と「書く・読む」力の育成をバランスよく取り入れた「言語運用能力

を強化してコミュニケーション能力を育成する」という観点で国語科教育のあり方を検討する。

### 3 国語科で扱うべきコミュニケーション能力に対する意識の差

#### 3.1 高校生と国語科教員の意識の差

2006年10月に、埼玉県立高等学校4校を対象に、現役高校生に「国語の授業で学習したい表現力」について付録のような質問紙を用いて質問紙調査を実施した（対象者220名 複数回答可）。その結果、図4のように、「敬語」、「その場に応じた臨機応変な言葉」、「人への説明や説得の仕方」「丁寧な言葉遣い」等が上位であった。いずれも他者との関係を構築するためのコミュニケーションスキルであり、多くの高校生が他者とのコミュニケーション形成について関心や問題意識を持っている可能性が高いことが推察できる。一方、2007年5月に、埼玉県立高等学校国語科教諭に対して、同一の質問項目を使い、「国語の授業で重視して育成したい表現力」について質問紙調査を実施した(対象者27名)。その結果、図4のように、「人への説明や説得の仕方」「作文や感想文」、「小論文」「その場に応じた臨機応変な言葉」等が上位であった。高校生と比較すると、自分の意見や考えを整理して記述する「作文や感想文」「小論文」が重視されて

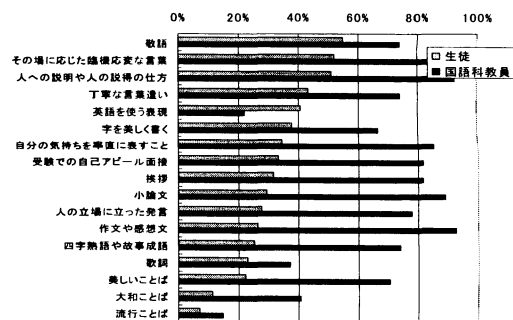


図4 高校生と教員の表現力に対する意識の差

おり、教員は、文字言語能力を中心に据え、その中で他者に対する情報発信の必要性や問題意識を持っている可能性が高いことが推察できる。さらに「あなたは国語の授業を通じて生徒にどんなことを身に付けさせたいとお考えですか」という問いに対して、「書き手・話し手の意図の可能性を多様に挙げることができる」「IT機器等を活用して効果的なプレゼンテーションを実施できる」に対する肯定的な回答は約50%であった。前者からは、情報を正確に受信して内容を的確に把握する能力の養成に対する教員の意識の低さが浮き彫りとなり、後者からは情報機器を利用した表現指導を国語の授業で行うことに対して教師が否定的であることが浮き彫りとなった。

### 3.2 企業の重視するコミュニケーション能力

1.1でも、高等学校を卒業する生徒に対して企業は特にコミュニケーション能力を求めていることがいくつかのデータから示されていた。また、国語科の学習内容を質問項目に、2007年7月に埼玉県内企業人事担当者に対して、「高校の国語の授業で重視してほしい表現力」について質問紙調査を実施した（対象者20名）。「文章の読解（文章を正確に読み内容を理解する）」「聞くこと（他者の話を聞く）」、「漢字（漢字の読み書き）」等が上位に集中した。

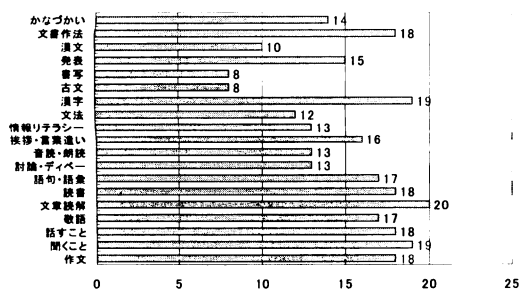


図5 企業が重視する表現力

### 3.3 国語科として再認識すべき学習内容

以上の三者の立場における質問紙調査の結果から、高校生、教員と比較すると企業は、情報を読み聞きし、その内容を的確に把握する能力を重視する傾向があることが推察できる。高校生は他者とのコミュニケーション形成について問題意識を抱えているのに対して、教員は情報発信に関する能力、企業は情報の受信及び理解に関する能力をそれぞれ重視する傾向があり、高校生の必要とする表現学習と教員の重視する表現指導と企業の求める表現力の間には三者ともに意識のずれがみられる。コミュニケーション能力に対する問題意識は企業も高校生自身ですらも高い。それに対して学校の教員だけがその意識が低いと言わざるを得ない。

「高等学校学習指導要領の解説国語」（文部科学省 2001）によれば、「伝え合う力」とは、「人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり的確に理解したりして、円滑に相互伝達、相互理解を進めていく能力」のことである。

国際化、情報化など変化の激しいこれからの社会では、一人一人が良好な人間関係づくりや健全な社会づくりに積極的にかかわろうとする意欲や態度が特に求められる。言語の教育の立場に立つ国語科は「伝え合う力」を高めることを通して、そのような意欲や態度を育てていこうとする立場にある。生徒の表現と理解の能力及びそれを基盤とする「伝え合う力」は、小学校及び中学校を通じて養成してきたところであるが、高等学校においては、その能力を一層確実にし、社会人としての現実のなかで十分活用できるように育成することが必要である。

現行の学習指導要領における高校国語の評価観点を挙げると、関心・意欲・態度、話す・聞く能力、書く能力、読む能力、知識・理解の5つである。

また、教科としての国語科の改善の基本方針を受けて、各学校段階の「改善の具体的事項」が示されている。そこでは、各学校段階の冒頭

に、次のようなねらいが示されている。(小学校) 日常生活に必要な言語能力の育成、(中学校) 社会生活に必要な言語能力の育成、(高校) 社会人として必要とされる言語能力の育成である。高校国語は、特に社会人として必要とされる言語能力の基礎を育成することを改善の中心に置いているのである。

高等学校国語科が現行学習指導要領へ改訂された時には、教育課程審議会の答申に従って、各学校での実際の授業に生かされるよう、次のような言語活動例を示している。

国語総合：説明、スピーチ、報告、発表、話し合い、討論

国語表現：スピーチ、発表、討論、報告、案内、紹介、連絡、表現効果の吟味、表現活動に対する自己評価、相互評価

現代文：話し合い、発表

古典：話し合い

古典講読：発表

これらの言語活動例を活用するに当たっての留意点としては、以下の項目が整理されている。

ア. 非常に日常的に行われる言語活動であること。

イ. 「読む」「書く」という言語活動より、相手を強く意識する言語活動であること。

ウ. 「読む」「書く」という言語活動より、表情など非言語要素の果たす役割が大きい言語活動であること。

エ. 音声言語であるがゆえにすぐに消えてしまい、表現としての適否を確認しづらいこと。

オ. 「話すこと」「聞くこと」が表裏となって同時に行われる活動であること。

さらに上記の言語活動支援のための留意点として、以下の項目が整理されている。

1. 発言・発表を温かく受け入れられる学習集団を育成すること。

2. 学習目標の焦点化・段階化を行うこと。

3. 必然性を感じて話したり、聞いたりでき

るテーマ・場面を設定すること。

4. その場での指導を重視すること。

5. 自分の考えをもつに至るまでの学習過程を大切にすること。

6. 日常の授業や他の領域の学習活動との関連を重視すること。

7. 評価を活用すること。

国語科の学習において、互いに立場や考えの違いが存在し、それを認め尊重し合うという前提の下で、言語の教育としての立場から言葉で伝え合う能力を育成することは、非常に重要である。発達段階を考慮して、高等学校の国語科への要請は、社会人として必要とされる言語能力の基礎を確実に育成することが求められている。また、国語科の授業は、他教科や他の学習活動に寄与する言語能力をより適切に育成する面をも併せ持っている。

生徒の積極的、主体的な言語活動を促す指導には、創意工夫が必要とされる。大学入試や資格試験など、直接進路にかかわる領域の指導や学習に膨大な時間を取られる高校教育では、教員にも生徒にも時間的な余裕がないのも事実である。しかし、筆者は高校生にこそ「話し合う＝人と伝え合う」訓練と機会が必要だと考える。感性の豊かな思春期に人と話し合うことによって得られることは多く、そのまま生きる力に結びつくと考えるからである。また大学や企業が面接や小論文などを通して求めようとするのも「話し合う力」つまり「伝え合う力」を身につけた人物に他ならない。現代のように一日中だれとも口を利かなくても生きていける、他者との会話の機会が減少し、言語能力を訓練する社会的機能が衰えている今の時代には、学校という集団の中で「伝え合う力」を育てることが大切である。したがって、国語科の言語の教育という重要性はますます高まるであろうし、その責任を具体的かつ確実に果たすべき時期に来ている。

#### 4 国語科に求められる「聞く・話す」力の育成の工夫

図6は埼玉県高等学校国語科教育研究会が実施した「社会に出て必要になる国語力は何か?」というテーマで高校生に対して実施した質問紙調査の結果である(埼玉県高国研1999)。これをみると「書く力」や「読む力」よりも、「話す力」「話し合う力」「聞く力」の方が実社会では必要になると考える生徒が相対的に多いということが伺われる。図4にある、本研究での調査結果でも、やはり生徒が重視する項目の上位には「人への説明や人の説得の仕方」といった話すことに関わる項目が並んでおり、図6の結果を裏付けするものである。

これまでの高校国語科の授業は、教師主導型の講義形式で教材文の読解と語彙の習得(知識注入型)を中心に行われてきた。それに伴う表現の領域も使用教材の要旨の整理や要約文、感想文などの指導に偏ってきた。そのため企業が求めているコミュニケーション能力に最も関連の深い音声言語表現の知識と技能を学習する機会が生徒には不足している。

そこで筆者は高等学校においても、発声・発音から対話・発表・討論、非言語表現スキルにいたるまで音声言語に関する基礎的な学習を総合的な学習の時間や選択科目の授業だけでなく基本教科の授業の中にもっと組み込む必要があると考える。

現行の学習指導要領国語における科目の構成は、国語表現Ⅰ(2単位)、国語表現Ⅱ(2単位)、国語総合(4単位)、現代文(4単位)、古

典(4単位)、古典講読(2単位)である。必修科目は「国語表現Ⅰ」または「国語総合」のいずれかから選択し履修することになっている。「国語表現Ⅰ」・「国語表現Ⅱ」は、正に聞く、話す活動を積極的に取り入れた授業を展開する科目であるが、多くの高校の実際のカリキュラムでは国語総合や現代文が1、2年次に重点的に行われるが、国語表現は3年次に追いやられているのが実情である(文部科学省2005)。このことから、これからの国語科教育としては、特に国語総合や現代文の授業の中で、より積極的に話す・聞く活動を取り入れることが必要だと考える。もちろん、国語総合には、3領域の一つとして明確に「A 話すこと・聞くこと」の領域が設けられ、内容として重視されているが、公表されている複数の高等学校の平成19年度の年間指導計画を分析した限りでは、表現に関する単元は全体の2～3割程度、表現に関する単元の中で音声言語表現に関する単元はさらにその中の2割程度の扱いでしかない現状である。多くの高校が科目の目標として「表現する力」「伝え合う力」をうたっているが、実施されているのは文字言語で表現する能力である。一方で多くの時間が題材文の読解に割かれており、話す・聞く活動を、読解の単元にいかに取り入れていくかが工夫の鍵となると考える。しかし、同時に、大学受験への対応など教育現場のニーズを無視することもできないため、従来からの学習内容を減らすことなく、また同じ時間数の中で目指す授業が実現できる必要がある。

「これからの時代に求められる国語力について」(文化審議会2004)によると、今後学校教育において扱うべき国語力は、①言語を中心とした情報を処理・操作する領域(中核)、②「国語の知識」や「教養・価値観・感性等」の領域(基盤)と整理されている。

上記の能力育成に重点をシフトするための具体的な方法として、例えば有元(2006)は、次のように学習内容を転換していく必要があると提案している。

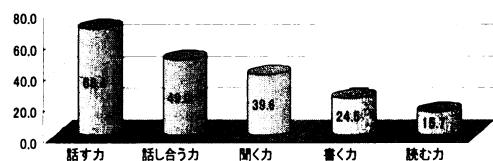


図6 社会に出て必要になる国語力



1 教科書教材だけを精読する授業から、多様な資料(文字・画像等)を収集して活用し、課題を分析・整理するプロジェクト型(情報収集・処理・選択・活用・発信能力の基礎を育成し「ことばの力」を考えさせる)の学習に転換する。

2 登場人物の心情や内容を主観的に憶測する読解の授業から、書かれていることを根拠にして「なぜそう書いたのか」を、討論を通して推論し解釈する学習に転換する。

3 教材を無批判に受け入れて感動させる授業から、具体的な根拠を挙げて、文章が効果的かどうか評価したり批判したりする学習に転換する。

4 教材の感想等をもとにして表現させる授業から、正確に読み取ったことを根拠にして自分の体験と結び付けて表現させる授業に転換する。

上記の波線部が、企業は重視しているにも関わらず従来の国語科教育に欠けていた新たな視点である。正に、国語総合、現代文、古典、古典講読等の読解中心の授業に対する、PISA型読解力・問題解決能力等の育成を念頭に置いた改善提案となっており、本研究の方向性とも符合する。

本研究は、上記の提案をさらに具体化し、生徒の音声言語能力の育成を重視する授業への改善を提案する。言語に対する感覚はまさに言語を使用する中で磨かれていくものである。高校生の日常生活において適切な言語表現が磨かれる機会は非常に乏しい。学校においてその機会を補うべきであり、特に、国語科において意識的な取り組みを行うことが喫緊の課題である。

そこで、本研究では、文字言語教育と比較して、音声言語教育として特に重視すべき特有の目標として、次の4つが大事であると考え、これらに基づく、国語科の授業改善の方法を提案する。

#### 1 抑揚、強調、間合い

文字言語にはない特性であり、どうしたらより良く相手に伝わるか工夫する技能である。これらを目的や状況に応じて使いこなすことができるための考え方と知識の習得。

#### 2 不可逆性

文字言語で書かれたものは読み返すことが容易であるが、音声言語で表現されたものは引き返すことができない。そのための適切な文章構成を行うための見方・考え方・知識・技能の習得。

#### 3 即応性

文字によるコミュニケーションは応答に一定の時間を要するから比較的返事を書くのに時間をかけられるが、音声によるコミュニケーションには即時的な応答が求められる。この特性を理解して必要な応答を的確に判断して表現できるための見方、考え方、知識、技能の習得。

#### 4 聞く技術

音声言語の不可逆性や即応性を踏まえてよりよく聞けるためには、話をただ聞き流すだけでなく、要点を押さえて記憶しようとしたり、必要に応じてメモを取るなどの工夫ができるための見方、考え方や知識、技能の習得。

以上の4点にもとづく、授業改善の方法について、具体的に以下に例を挙げる。

#### 【例1】従来の読解活動への討論活動、会議活動の融合

先の有元の提案の2や3にあるように、従来は、教師が定説となっている解釈や、教師自身の主観の混じった解釈を無批判に受け入れさせる読解活動が中心であるが、読解において重視すべきねらいは、「文章の解釈は常に目的や状況、立場によって変化する」ため「読み手が主体的、批判的に再解釈するものである」ということであろう。そこでは、教師自身も1人の解

釈者として、生徒と意見を戦わせる存在であるべきであり、生徒にそのことを自覚させるべきであろう。

そこで、例えば、従来の、(1) 言語事項の指導⇒(2) 文章構成の把握(意味段落分け等)⇒(3) (意味段落等のまとまり毎に) 教師による解釈の提示⇒(4) 生徒による追認⇒以下(3)(4)を繰り返し、といった授業の基本的な流れを、むしろ、(2)(3)(4)の部分、(2') 文章構成の把握に先立って、全体を分担して、抑揚・強調・間合いを意識した相互評価を取り入れた音読を取り入れる⇒(3') 教師の個人的な意見としての解釈を提示⇒(4') 教師の意見に対する批判的な分析を元に生徒自身の意見を少人数のグループで討論しまとめた上で発表する⇒(5) 多様な意見の存在と傾向を全体で共有する⇒以下(3')(4')(5)を繰り返し、といった展開へと変形することで、(3')や(5)において聞く活動が加わり、(4')において話す活動が加わることになる。この中で、(4')では、グループでの意見をまとめるという作業をあえてさせることで、討論活動の体験が可能である。時間を短縮したい場合には、まとめることはさせず意見を述べ合った後、各自が自分の意見を再吟味するだけでも、各自の自分の意見を洗練化しようとする意識を高めさえすれば話す・聞く活動は十分行われるであろう。さらに(5)においてクラス全体での意見の多様性や、その中にある多数を占める意見から少数意見まで傾向を捉えて行く課程は、会議の形態で、生徒に議長や書記(黒板に発言を板書するなど)などの役割を配置して、行わせることもできるであろう。最初は教員が脚本を事前設定して実施し、慣れてきたら生徒に自主的に行わせるようにすることで、「ルールとマナーを遵守して集団の中で堂々と発言する」「批判的思考力を持って他者の意見を聞く」といった話す・聞く活動だけでなく「状況や立場によって解釈が違って行くことを知り、多くの問題が複数の答えを持っていることを知る」「合意形成への過

程を知り、多くの問題の解決が複数の意見の間のトレードオフによって決まることを知る」ことにもつながるであろう。

つまり、従来の定説を分からせるために指導に費やす時間を、定説も1つの意見に過ぎないとして生徒に提示することで、指導する時間をむしろ、各自が主体的、批判的に解釈をする時間に充てることができ、仮に結果として最初の定説を選んだとしても、より納得の行く形で受け止めることにつながると思われる。さらには、従来触れていなかった、後者の2つは、正に、国語科における読解や表現における重要な見方考え方であり、より国語科の本質に迫る授業となると考える。

このように国語科における教科の本質を見極め、活動を精選することによって、話す・聞く活動を組み込む時間的余裕を生み出すことが可能であると考えられる。

## 【例2】紙媒体の文献・資料等を利用したプレゼン活動の融合

さらに、(4')や(5)の中に、プレゼンテーション活動を融合することで、話す・聞く活動をより充実させることが可能であろう。当然、(4')や(5')にかかる時間数が増えることから、まず、(1') 難解な語句の読み方と意味はプリントにまとめて初回の授業時に配布し各自が適宜参照する、などの工夫をすることで時間確保ができる。その上で、(4'') グループで討論する際に、より自分の意見を説得的に伝えるために必要な資料・文献を当該学校図書館で調べ、画像等をスキャナー等でPCに取り込んでスライドを作成したり、紙の資料を貼り付けてポスターにまとめたりして議論を深めグループでの意見をまとめる⇒(5') 各グループが発表する際も、さまざまな手段を駆使してより説得的なプレゼンテーションを行い共有する、といった展開へと変形することで、話す活動のよさを吟味し、話す活動の質を高めることにつながると考える。

### 【例3】多様な意見を知るインタビュー活動の融合

話す活動だけでなく聞く活動も工夫できる。例えば、(3')では教師の意見表明、(4'')ではグループのメンバーの発言・プレゼンテーション、(5')ではクラス全体でのプレゼンテーションにおいて、聞き手は、教師による音声言語の特性である不可逆性について指導を受けることで、要点を整理しながら記憶しておくことの重要性やメモを取ることの重要性に気付かせることができるであろう。また、討論活動や会議活動においては、音声言語による質疑応答の特性である即応性が求められるため、質問の意図を的確に捉えることの重要性にも気付かせることができるであろう。より積極的に必要な情報を得ようとすれば、インタビュー活動を取り入れることができる。例えば、(3')において、教師の意見だけでなく、例えば書き手の意図をより正確に捉えようとすれば、作者に直接尋ねてみたいと思うであろうが、作者が生きている題材文を選ぶことで、実際にインタビューを行う活動を組み込めるであろう。それ以外にも、題材文の作者を対象に研究する研究者、評論家へのインタビューなども(4'')を活性化させる上で役立つという考えから、生徒が主体的に発想することを促したい。また、もっと単純に教師に意見を語らせるのではなく、生徒からのインタビューによって、教師の意見を引き出し(4'')につなげることもできるであろう。

従来から、国語表現の科目では、「音読・朗読」「スピーチ」「プレゼンテーション」「インタビュー」「討論・ディベート・パネルディスカッション」「非言語コミュニケーション」などの活動を用いた、多様な実践の工夫が考えられてきたが、国語総合や現代文の科目の中で効果的に話す・聞く活動を組み込んで行くためには、「プレゼンテーションをさせる」といった活動を行うこと自体を目的化することなく、まずは教員が国語の授業の中で、生徒の「話す技術」「聞く

技術」の能力を育成するために目指すべき目標や指導の意図を明確にし、適切にそれらの活動を授業の中に組み入れることを意識することが大切である。そして文字言語能力の育成を重視してきた国語科教育の偏りの部分を修正し、文字言語と音声言語の指導をバランス良く行うことを提案する。

また今後は臨床心理学の知見を取り入れ、生徒に対人関係の技能を効果的に習得させることも検討すべきである。具体的にはグループエンカウンター、アサーション、ピアサポートなどのカウンセリングスキルの技法を使って生徒に自己及び他者理解や自己開示や穏やかな自己主張の仕方などを習得させたり、コミュニケーション及び非言語コミュニケーション技能の訓練としてソーシャルスキルのトレーニング方法を取り入れるのもひとつの有効なキャリア形成支援となるであろう。

## 5 今後の課題

今後のキャリア教育は、生徒の自立への内発的動機付けが最も大きな課題である。そのためには、生徒の日常生活に密着した音声言語を用いたコミュニケーションを、キャリア形成支援の理念のもとで取り扱うことが大事であろう。

次期学習指導要領では、学校のすべての教育内容に必要な基本的な考え方として「言葉の力」を据えることが発表された。「言葉の力」は「確かな学力を形成するための基盤。他者を理解し、自分を表現し、社会と対話するための手段で、知的活動や感性・情緒の基盤となる」(文部科学省2006)と位置づけられている。国語科教育が「言葉の学習」を中核とするからには、生徒のコミュニケーション能力育成という社会の要請に応える指導内容を積極的に提示していかなければならない。

本研究は、今後まず4章で提案した音声言語教育に特有とした4つの学習目標について、文字言語教育との共通点、相違点をより明確にす

る中で、より詳細な内容項目へと精緻化する必要がある。さらに、国語総合や現代文において従来にくらべて、文字言語教育と音声言語教育のバランスのより取れたコミュニケーション能力育成を目指す国語科の授業設計の方法について検討する必要がある。そして、このような新しい国語科教育のあり方の提案を通して、高等学校における音声言語教育の指導のあり方を中心にした新たな視点での生徒のキャリア形成の支援方法の提案に結びつけたい。

## 謝 辞

本研究で実施した質問紙調査では、埼玉県高等学校国語科教育研究会および埼玉県立大宮工業高校進路指導部の先生方の協力を得た。また実際の調査では埼玉県内の複数の高等学校の生徒に協力を得た。関係各位に感謝する。

## 参考文献

- [1] 西尾実 (1947)：「言葉とその文化」，教育出版
- [2] 倉澤栄吉 (1969)：「話しことばとその教育」，角川書店
- [3] 増田信一 (1994)：「音声言語教育実践史研究」，学芸図書
- [4] 文部科学省 (1999)：「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」  
([www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/12/chuuou/toushin/991201.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/chuuou/toushin/991201.htm))
- [5] 埼玉県高等学校国語科教育研究会 (1999)：「音声言語指導事例集第2集」
- [6] Edward L Deci (1999)：「Why We Do What We Do」，新曜社
- [7] 田中孝一 (2000)：「高等学校新学習指導要領の解説国語」，学事出版
- [8] 文部科学省 (2001)：「高等学校学習指導要領解説国語編」，東洋館出版社
- [9] 国立教育政策研究所 (2002)：「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」  
([www.nier.go.jp/shido/centerhp/sinro/sinro.htm](http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/sinro/sinro.htm))
- [10] 全国大学国語教育学会 (2002)：「国語科教育

学研究の成果と展望」，明治図書

- [11] 文部科学省 (2004)：「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」  
([www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002/002.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002/002.htm))
- [12] 文部科学省 (2004)：「これからの時代に求められる国語力について」  
([www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/bunka/toushin/04020301/002.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/bunka/toushin/04020301/002.htm))
- [13] 文部科学省 (2004)：「児童生徒の問題行動対策重点プログラム」  
([www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/16/10/04100501.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/10/04100501.htm))
- [14] 文部科学省 (2006)：「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引き」  
([www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/06122006.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/06122006.htm))
- [15] 文部科学省 (2006)：「高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力者会議報告書」  
([www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/06122007.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/06122007.htm))
- [16] 大平浩哉 (2006)：「国語教育改革への提言」，早稲田大学国語教育研究第26集，早稲田大学国語教育学会
- [17] 有元秀文 (2006)：「国際的な読解力を育てるための相互交流のコミュニケーションの授業改革」，溪水社
- [18] 文部科学省 (2007)：「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」  
([www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/07020115.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/07020115.htm))
- [19] 国立教育政策研究所 (2007)：「キャリア教育への招待」，東洋館出版社

## 付 録

1. 国語科教員に行った質問紙調査で用いた質問紙 (高校生向けの質問紙と付録1の質問項目は同じであり図4で対応づけて分析している)
2. 企業の人事担当者に行った質問紙調査で用いた質問紙

(2007年9月28日提出)

(2007年10月19日受理)

# 「表現力の指導」に関する調査

平成19年5月30日

本日は埼玉県高国研総会にご出席いただきありがとうございます。先生方におかれましては  
お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、南部支部研究委員会の研究テーマ「生徒の求める表  
現力」に関連するアンケートへのご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

\* 該当する番号の□にチェックを、または空欄にご記入ください。

1 あなたの国語科の教員としての経験年数はどのくらいですか？ (臨時的任用期間も含みます)	<input type="checkbox"/> 5年未 満	<input type="checkbox"/> 5年以 上10年未 満	<input type="checkbox"/> 10年以 上15年未 満	<input type="checkbox"/> 15年以 上20年未 満	<input type="checkbox"/> 20年 以上
--	-----------------------------------	--	---	---	------------------------------------

2 次の事柄について、あなたはどのようにお考え ですか？	そう 思う	ど ちら か と い え	分 か ら な い	ど ち ら か と い え	そ う 思 わ な い
---------------------------------	----------	-----------------------------	-----------------------	---------------------------------	----------------------------

(1) 国語科の表現指導は今後ますます重要になってくる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) 今後の教育課程の中で国語科の必要性はますます高くなる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3) 国語表現の教材研究に苦勞している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4) 国語表現の評価方法を模索している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(5) 高校において英語科よりも国語科での教育が大事である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(6) 今の高校生に育成すべきコミュニケーション能力とはどんなことだと思いますか？					

3 あなたは国語の授業を通じて生徒にどんなこと を身に付けさせたいとお考えですか？	そう 思う	ど ちら か と い え	分 か ら な い	ど ち ら か と い え	そ う 思 わ な い
--	----------	-----------------------------	-----------------------	---------------------------------	----------------------------

1 対話による情報交換ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 相手に応じた適切な敬語を使い会話ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 相手の話の内容を正確に関き取り要旨を説明できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 書き手の意見と自分(読み手)の意見を区別して説明できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 書かれている事柄の客観性、信頼性を判断することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 話し手の意図をふまえて情報の真偽を判断できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 受け手の特性を活かした情報表現を選択できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 言葉の表す意味を的確に説明できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 状況に応じて適切な言葉を選択できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 言葉の同義語を挙げることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 決められた字数の中で論理的な文章を書くことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

12 読みやすさと句読点の付け方の関係について説明できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 他者の意見との違いを説明できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 回答が問い(発問意図)に合っていることを判断できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 意見に対する根拠を具体例を挙げて説明できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 論理的な飛躍の有無を識別できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 発表のポイントを精選して効果的に構成できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 IT機器等を活用して効果的なプレゼンを実施できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19 書き手/話し手の意図の可能性を多様に挙げることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20 自分の気持ち/価値観を具体例を挙げて説明できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

4 あなたが国語(表現の分野)の授業を通じ て、特に重視して育成したい表現力はどんな ことですか？	そう 思う	ど ちら か と い え	分 か ら な い	ど ち ら か と い え	そ う 思 わ な い
---	----------	-----------------------------	-----------------------	---------------------------------	----------------------------

・敬語	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・その場に応じた臨機応変な言葉	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・人への説明や人の説得の仕方	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・丁寧な言葉遣い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・英語による表現	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・字を美しく書くこと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・自分の気持ちを率直に表すこと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・受験でのアピール(面接)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・挨拶	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・小論文	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・人の立場に立った発言	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・作文や感想文	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・四字熟語や故事成語	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・歌詞	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・美しいことば	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・大和ことば	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・流行ことば	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

# 質問紙調査のお願い

○本日は本校へのご訪問たいへんありがとうございます。

今後の進路指導のために以下の質問に対する回答をご記入いただきましたら誠に幸甚でございます。

1 次の事柄について、あなたはどのようにお考えですか？(最も該当する□にチェック記入をお願いします)	そう思う	えどちらかと い	分 か ら な い	ど ち ら か と い え	そう 思 わ な い
(1) 新入社員の言語教育(挨拶・言葉遣い等)には苦勞している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) 学校でもっと基本的のマナーや敬語を教えるべきである	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3) 高校において国語科での教育内容が最も大事である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4) もっと漢字や文章を書く力を身につけさせるべきである	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(5) 学校でコミュニケーション能力を育成する必要がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2 あなたは高校の国語の授業で主にどんなことを勉強しておくべきだとお考えですか？(最も該当する□にチェック記入をお願いします)	そう思う	えどちらかと い	分 か ら な い	ど ち ら か と い え	そう 思 わ な い
1 作文(文章を書くこと)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 聞くこと(他者の話を聞く)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 話すこと(他者に意見や考えを伝える)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 敬語(適切な敬語を使用する)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 文章の読解(文章を正確に読み内容を理解する)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 読書(本を読む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 語句・語彙(日本語の豊かな知識)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 討論・ディベート(意見の異なる他者と話し合う)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 音読・朗読(声を出して読む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 あいさつ・言葉遣い(基本的なマナー)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 情報リテラシー(情報の正誤を判別する)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 文法(口語・文語文法)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 漢字(漢字の読み書き)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 古文(古文の知識)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 毛筆・硬筆書写(字を丁寧に書く)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 発表(自分の意見・アイデアを整理して発表する)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 漢文(漢文の知識)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 書類・手紙等の作法・書式(文書作成マナー)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19 送りなが・かなづかい(正しい表記)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20 ひらがな・カタカナ(正しい表記)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3 あなたの考えるコミュニケーション能力とはどのようなことでしょうか？  
(社会の現場で必要なコミュニケーション能力とは)

\*本日はご多忙の折、アンケートにご協力いただき、たいへんありがとうございました。

皆様の貴重なご意見を今後の生徒への指導の参考にさせていただきます。

(平成19年度 埼玉県立大宮工業高校進路指導室)

付録2 質問紙調査用紙(埼玉県立大宮工業高等学校進路指導室にて実施 平成19年7月)

Study on the principle and the method of  
national language education  
that helps career education in senior high school  
— Proposal of the objectives and methods of  
promoting communication abilities  
related to career education in national language class —

Hajime HAYASHI\* and Tairo NOMURA\*\*

Keywords : career education, national language education, communication ability,  
linguistic competence and performance, spoken language education

Abstract

Recently career education is focused in school education. For adopting the quick change of social circumstances that surround the young person's life, needs of communication ability and importance of national language education are both growing. Furthermore, recently, there are much more needs of speaking and hearing ability and spoken language performance. To develop own career, also important to learn logical thinking and communication ability.

This paper shows new principle and methods of national language education in national language class in senior high school which contribute developing students career.

---

\* Graduate School of Education, Saitama University; Omiya technical highschool, Saitama

\*\* Faculty of Education, Saitama University